

日本航空宇宙学会関西支部 第502回航空宇宙懇談会

日 時： 2026年9月4日（金） 15:00-17:00

会 場： 神戸大学情報価値創造教育棟 J301 室

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

交通アクセスは下記 URL をご参照ください。

<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/campus-life/general/access/rokkoro/rokkodai2/>

駐車場はありませんのでご注意ください。

※Microsoft Teams による配信も行います。下記申し込み先にご連絡ください。

前日までに接続情報をご連絡します。

講演 1

「流体・剛体連成解析による空飛ぶクルマの飛行シミュレーション」

神戸大学大学院システム情報学研究科 特命助教 滝井 郁人 氏

次世代の移動手段として eVTOL をはじめとする「空飛ぶクルマ」の開発が活発化している。これらは都市部などの低高度を飛行することから極めて高い安全性が求められる一方、複数のローターと機体間の複雑な流体干渉により、その空力特性や飛行挙動の予測・評価は難解である。本講演では、ティルトローター機等の流体剛体連成解析技術（6自由度飛行シミュレーション）をベースに、空飛ぶクルマを対象とした最新の CFD 計算結果を紹介する。具体的に、二重反転プロペラ機の離着陸や旋回飛行、さらにプロペラの故障が飛行挙動に与える影響の評価事例を解説する。

講演 2

「鳥剥製の風洞実験」

関西学院大学工学部 教授 岸本 直子 氏

状況に応じて主翼や尾翼の形状を変えるモーフィング技術の研究開発が国内外で盛んである。我々は、モーフィング技術の実現例である鳥に着目し、鳥剥製を使った風洞実験に取り組んでいる。飛翔体としての鳥の研究の歴史は長く、さまざまな研究結果が積み重ねられているが、主翼だけでなく全身の鳥剥製を積極的に活用して風洞実験をおこなった例はあまりない。本講演では、いくつかの鳥の剥製をつかった風洞実験に関して、JAXA 大型低速風洞での実験に加えて、剥製の製作から、計測系、剥製の 3D 形状を使った CFD 計算について解説する。また、こうした研究で常に問題となる飛翔中の鳥の 3 次元形状の取得に関して現在取り組んでいる研究を紹介する。

参加費：無料

*参加は会員に限りません。周りの方や学生の皆様にもお伝えください。

開催形態と登録：対面とMicrosoft Teams配信のハイブリッドで行います。参加登録は8月31日（月）までに、関西支部ホームページよりお願いします。

<https://branch.jsass.or.jp/kansai/>

問合せ先：〒604-8511 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1

株式会社島津製作所 航空機器事業部 技術部

2026年度日本航空宇宙学会関西支部事務局

E-mail: jsass_kansai2026@group.shimadzu.co.jp